

病棟看護師が支える EVT 患者の創傷管理～WOCN 連携と動画教育の効果～

¹社会医療法人大道会森之宮病院黒川 双葉¹、安西 美恵¹、山崎 千夏¹

【目的】当院下肢救済センターでは年間約 700 件の EVT を実施し、入院患者は常時 50 から 60 名で推移している。足病患者における血管治療前後の創傷管理や日々のフットケア・下肢観察は治療成績に直結する重要な要素である。今回、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）との協働による業務改善と、創傷回診同行・動画教育を組み合わせることで、病棟におけるフットケアの均一化に取り組んだため報告する。【方法】WOCN と協働し、被覆材の選定、洗浄方法の見直しなどの業務改善を実施した。さらに、足洗浄・軟膏塗布・圧迫療法・退院後セルフケアを動画化し、患者・家族・施設スタッフ・病棟スタッフが QR コードで視聴できる教育体制を構築した。動画視聴後にアンケート調査を行い、理解度と活用状況を評価した。【結果】WOCN との協働により観察視点が統一され、血管治療後の創傷悪化兆候の早期発見が可能となった。動画教育の導入により、経験年数によるケアのばらつきが減少し、新人看護師でも洗浄・圧迫療法を均一に実施できるようになった。患者は動画で予習することで指導時間が短縮し、退院後のセルフケア継続率が向上した。アンケートでは、院外施設からも「動画を共有し、統一したケアを実施したい」という意見が得られた。【結論】WOCN の身近な支援と動画教育を組み合わせた取り組みは、EVT を多く実施する当院において、血管治療前後のフットケアの均一化とアウトカム改善に有効であった。